

# 中村宏 絵画者の軌跡 1953-2025

2026.2.12[木] - 2.28[土] ギャラリー58

## 【開催概要】

- 展覧会名 中村宏 絵画者の軌跡 1953-2025
- 会場 ギャラリー58 東京都中央区銀座4-4-13 琉映ビル4F Tel 03-3561-9177
- 会期 2026年2月12日(木) - 2月28日(土)
- 休廊日 2月15日(日)、2月22日(日)
- 開催時間 12:00-19:00 (土曜日は17:00まで)
- アクセス 東京メトロ銀座線・丸ノ内線・日比谷線 銀座駅B1・B2出口より徒歩1分
- 入場料 無料
- 出品点数 80点以上(初公開の作品・資料約15点含む)

自らを「絵画者」と名乗り、70年以上にわたって絵画の可能性を追求し続けた中村宏(1932-2026)の個展を開催します。中村氏は2026年1月8日に93歳で逝去されましたが、本展覧会にむけて生前より準備を進め、貴重な初期作品や未公開作品をお預かりし、中村氏ご自身も開催を心待ちにされていました。その想いを受け継ぎ、本展覧会を開催いたします。

本展ではタブロー(油彩画・アクリル画)、ドローイング、版画、スケッチブック、オブジェ、書籍など、約100点の作品と資料を1953年から2025年まで年代順に紹介します。作家埴谷雄高の対談集『架空と現実』の表紙絵として制作した油彩画《架空と現実》(1968年)や、別荘があったハケ岳周辺を1970年代に描いた水彩画、スケッチブックに残した構想メモや展覧会の展示プランなど、初公開となる作品と資料を約15点展示します。また、学生時代に描いた《二人》(1953年)と、二つの身体が強く抱擁する《無題》(1954年)は約70年ぶりの公開となります。

あわせて、挿画や装幀を手がけた書籍や児童書、展覧会の案内状、裸婦クロッキーのほか、姪の結婚祝いに贈った肖像画《千春像》など、紹介される機会の少ない作品や資料も展示します。長年にわたり絵画と格闘し続けた中村宏の、その表現への真摯な問いと制作の軌跡をご覧ください。

## 中村宏 略歴

1932年静岡県生まれ。1951年日本大学芸術学部美術学科入学。1950年代半ばより政治・社会的事件を題材にした「ルポルタージュ絵画」の旗手として注目される。一貫して具象表現にこだわり、「モンタージュ絵画」「観念絵画」「タブロオ機械」など独自の的方法論によってタブロー(絵画)を理論化し、セーラー服の女学生や機関車、飛行機などのモチーフを記号的に用いながら、常に新たな絵画表現を切り開く。2022年より自身の少年時代の戦争体験をルポルタージュした戦争記憶画に取り組んだ。主な展覧会に、2007年「中村宏 | 図画事件1953-2007」(東京都現代美術館、名古屋市美術館)、2010年「タブロオ・マシン[図画機械]-中村宏の絵画と模型」(練馬区立美術館)、2015年「絵画者 中村宏展」(浜松市美術館)。2026年1月20日より静岡県立美術館にて「中村宏展 アナクロニズム(時代錯誤)のその先へ」開催。2026年1月8日、93歳で逝去。



自宅アトリエにて 2025年11月16日

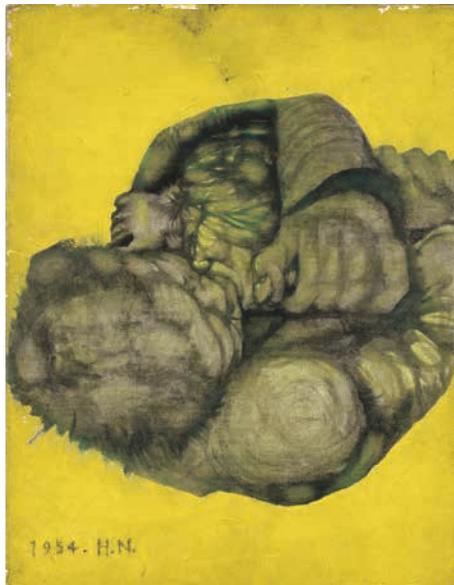
主な出品作品

●約70年ぶりの公開



《二人》1953年/21歳  
油彩、鉛筆、紙 12×7cm

●約70年ぶりの公開



《無題》1954年/22歳  
油彩、キャンバス 41×31.8cm



「中村宏★観念絵画」展  
パンフレット  
発行：内科画廊  
1964年/32歳



《第14回 明治大学 和泉祭ポスター》  
タイガー・立石との合作  
1964年/32歳 オフセット印刷

●初公開



《架空と現実》1968年/36歳 油彩、キャンバス 50×60.6cm  
埴谷雄高対話集『架空と現実』のために制作した作品。  
表紙と裏表紙それぞれに道が配される構図で描かれている。



埴谷雄高対話集  
『架空と現実』 南北社  
1968年/36歳



『現代詩手帖』 思潮社  
1969年/37歳



『夢野久作全集』 三一書房  
1969年/37歳



《聖少女》1974年/42歳  
垂鉛凸版、紙 37.5×23.8cm



《少女舟》1977年/45歳 シルクスクリーン、紙 36.6×52.6cm

《赤い井戸ポンプ》1966年/34歳  
カシュウ、鉄



『ピカピカのぎろちよん』  
1968年/36歳 あかね書房  
2005年/73歳 ブッキング(再版)

## 主な出品作品

●初公開



《ハケ岳 海ノ口》1978年/46歳 水彩、紙 24×33cm

中村は1978年に、長野県ハケ岳山麓・海ノ口に山荘を建て、制作の拠点として車でたびたび訪れていた。ハケ岳でのスケッチブックの中から風景画などを紹介する。

●初公開



《ハケ岳にて》1979年/47歳 鉛筆、紙 29.5×20.5

●初公開



《正丸峠にて》1981年/49歳 墨、紙 35×24.5cm

●初公開



裸婦クロッキー  
1986年/54歳  
コンテ、紙  
35×26cm

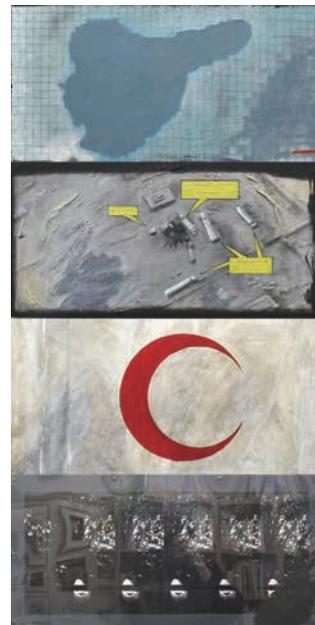
●初公開



《絵図連鎖》展示プラン 2006年/74歳 26.5×35cm

えずれんさ  
《絵図連鎖》シリーズは、複数の画面を不規則に組み合わせ、モンタージュ効果を生み出すとともに、「絵」と「図」とは何かを問いかける作品。2002年から2006年にわたって制作された。

この資料は、2007年に東京都現代美術館と名古屋市美術館で開催された回顧展「中村宏 | 図画事件 1953-2007」に向けての展示構想資料と推測される。本展では、《絵図連鎖-1》から《絵図連鎖-7》までの展示プラン合計5枚を紹介する。



《絵図連鎖・4》(部分)  
2003-2006年 71-74歳  
アクリル、写真、パネル  
30×60cm 4枚組

●初公開



《千春像》1990年/58歳  
アクリル、キャンバス 33.3×24.2cm



《図鑑》2008年/76歳  
アクリル、キャンバス 33.3×24.2cm



《色価と奥行5》2017年/85歳  
アクリル、キャンバス 53×65.2cm



《空襲》2022年/90歳  
アクリル、紙 22×22cm